

地域密着型金融の取組事例について

 タイトル ふれあい田んぼ教室 JA名 JAなごや (愛知県)

1 動機 (経緯)	<p>日本の主食であるお米を題材とした「ふれあい田んぼ教室-次世代を担うこどもたちに食農教育を-」は、農業のもつ様々な役割、意義、重要性などの理解を深めることを目的としています。なごや農協は、都市圏の全体に営業拠点があり、市街化区域と市街化調整区域が混在する農地を有している、都市部の小学生は水田における水稻栽培の実態や多面的機能を教材等にて知識習得しているが、実際に水田の作業を体験させ農業の重要性を肌で体験してもらうことを目的としました。</p>
2 概要	<p>水稻栽培における年間栽培方法を事前にスクリーンで解説して事前学習し、実際に昔行われていた手作業をあえて取り入れ、共同で行うことの協調性や「田植え」から「稲刈り」の一連の農業作業体験活動を実施する。田植え（児童）⇒水田管理（JA）⇒稲刈り（児童）⇒脱穀、籾摺り、精米（児童）</p> <p>その他、JAグループの機関紙（ちゃぐりん）を提供して、農業の多面的な機能や近代農業及び先進的な農業についても学習させています。</p>
3 成果 (効果)	<p>こどもたちの健やかな成長のため、『食育』にも効果としてあがり、水田における様々な動植物を実際に見ることや触れることで感受性の豊かな児童になると感じています。</p> <p>また、地域の消費者へ子供からの報告により農協の事業を知っていただける。さらに、他金融機関と違う差別化が図れ農業の魅力を知っていただける。</p>
4 今後の 予定（課題）	<p>今後も名古屋市内の小学校を対象とした『ふれあい田んぼ教室』は継続して行いますが、市内の児童全てを対象とすることが困難なことから、少しでも多くの児童が体験できる仕組みを構築することが課題です。</p>